

# 漁海況月報

平成19年 1月 1日

No. 1

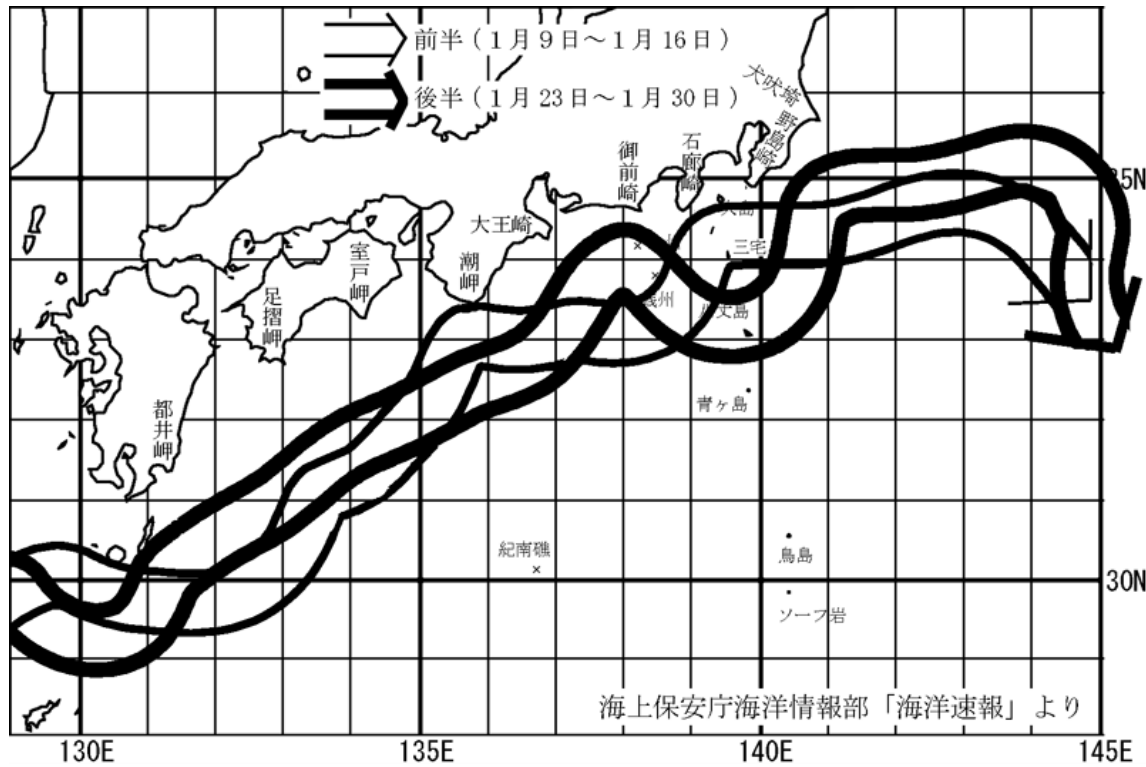
～ 1月31日

静岡県水産試験場

(電話 054-627-1815)

静岡県水産試験場伊豆分場

(電話 0558-22-0835)



定地水温の旬平均値 (°C) (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上旬	17.7	18.3	18.0	17.1	17.3	17.3	14.6
	0.3	0.3	0.6	-0.9	-0.3	0.5	-1.1
中旬	16.8	17.0	16.5	16.3	15.9	16.4	13.3
	0.2	-0.1	0.1	-0.5	-0.7	0.3	-1.2
下旬	15.8	15.9	15.8	16.1	15.6	15.7	12.9
	0.1	-0.4	0.1	0.1	0.0	0.8	-0.8
月	16.7	17.0	16.7	16.5	16.3	16.4	13.6
	0.2	-0.1	0.3	-0.4	-0.3	0.5	-1.0

## 【黒潮流路】

前半、黒潮は九州東岸から四国沖にかけて大きく離岸して流れ、潮岬に接岸した後、遠州灘沖 33°N を東進し、伊豆諸島の西側を北上して、三宅島付近から東方へ流去した。

後半には、黒潮は九州東岸から潮岬沖にかけて離岸して流れた後、遠州灘沖を北東に向かい、御前崎沖 30 マイル付近まで接岸した。その後、伊豆諸島海域で小規模に蛇行して房総半島沖を東方へ流去した。

## 【県下沿岸域】

県下の定地水温は、相模湾では 13～17°C 台、駿河湾東部では 14～19°C、西部では 11～18°C 台で経過した。平年に比べ、伊東を除いて高めで経過し、特に焼津では中旬および下旬に旬平均で 2～3°C 高めとなった。

黒潮の北上流路に伴い、中旬を中心に伊豆諸島北部海域から駿河湾および相模湾への暖水波及が顕著であった。

## 【竿釣近海カツオ】

1月の県内主要5港（沼津、清水、焼津、小川、御前崎）における近海カツオの水揚量は48トンを前年同期の166%であった。魚価は278円/kgで、前年同期を上回った。

静岡県船は、中旬から今年の操業を開始し、小笠原諸島南東海域でカツオを、伊豆諸島周辺海域でヨコワを漁獲した。

竿釣近海カツオ水揚量 (県内主要5港)

期間	水揚量 (ト)	水揚隻数	水揚/隻 (ト)	平均単価 (円/kg)
19年1月	上旬	0	0	—
	中旬	16	1	15.5
	下旬	33	1	32.6
19年1月計	48	2	24.1	278
18年1月計	29	1	29.3	257
17年1月計	288	13	22.1	284

## 【定置網】

平成19年1月、伊豆半島東岸大型定置網8か統（伊豆山、古網、赤石、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）の水揚量は99トンを、昭和57年以降で最も少ない水揚量であった。操業がなかった赤石と古網を除く1漁場当たり水揚量16.5トンは前年18.3トンの90%、平年値（昭和57～平成17年）21.3トンの77%であった。

魚種別漁獲量は、①スルメイカ43.4トン（A：前年同月比40%、B：平年同月比196%）②サンマ17.3トン（A：1607%、B：90%）③マアジ13.2トン（A：116%、B：143%）④メアジ4.1トン（A：2997%、B：232%）⑤アオリイカ3.0トン（A：442%、B：332%）の順であった。スルメイカは北川、川奈、富戸を中心に入網し、外套背長のモードは26cmであった。サンマは北川、谷津を中心に入網し、肉体長のモードは27cmにみられた。マアジは川奈、北川を中心に入網し、尾叉長のモードは24cmであった。メアジは川奈を中心に入網し、尾叉長のモードは19cmであった。アオリイカは川奈、谷津、富戸、赤沢を中心に入網し、測定できなかったが、外套背長は概ね20～25cmであった。漁場別水揚量は、北川33トン（スルメイカ、サンマ、マアジ中心）、川奈26トン（スルメイカ、マ

アジ、メアジ中心)、谷津17トン(サンマ、スルメイカ中心)の順であった。

**【サバたもすくい棒受網】**

年明けの出漁は中旬に入ってからとなり、小川港にはたもすくい、棒受網によってマサバ85トン、ゴマサバ390トンが水揚げされた。棒受網の漁場は三宅島及び三本周辺海域に、たもすくいの漁場は大室出し周辺海域に形成され、棒受網では尾叉長28～34cmのゴマサバが主体に漁獲された。たもすくいでは尾叉長33～36cmのマサバと30～35cmのゴマサバが主体で混獲された。漁獲されたゴマサバ及びマサバは、近年では比較的資源水準の高い2004年級群(3歳魚)と思われるものが主体となっていた。1kg当たりの平均単価は、ゴマサバで50円、マサバで80円であった。

**小川港 サバ類(たもすくい・棒受網漁業)水揚量**

期 間	水揚量(ト)	日数	延隻数	1隻当たり(ト)	漁 場
平成19年 上旬	—	—	—	—	
1月 中旬	197.6	7	12	16.5	三宅
下旬	277.2	8	15	18.5	三宅、三本
計	474.7	15	27	17.6	-----
平成17年1月	512	9	18	28.5	三宅、三本、御蔵
平成16年1月	462	4	13	35.5	三宅

水揚量は各旬で四捨五入しているため、計と一致しない

**【シラス船曳網】**

1月における1日1か統当りの水揚量は、駿河湾が73kg、遠州灘が255kgであった。主要6港平均の1日1か統当りの水揚量は167kgと前年同期(86kg)の1.9倍、平年同期(過去5か年平均:89kg)の1.9倍と前年同期、平年同期ともに大きく上回った。また、総水揚量は35.8トンで前年同期(14.0トン)の2.6倍と大きく上回り、平年同期(13.2トン)の2.7倍であった。平均単価は943円/kgと平年同期(1,087円/kg)を下回った。

**シラス水揚量(主要6港)**

漁 港	水揚量(ト)	延日数	延統数	平均漁獲量(kg/統)	平均単価(円/kg)
新 居	2.6	2	8	325	713
舞 阪	16.5	2	45	366	769
福 田	6.1	2	28	219	995
御前崎	3.1	3	30	103	1,436
吉 田	5.9	3	49	120	1,085
静 岡	1.6	3	54	30	1,422
平成19年1月計	35.8	15	214	167	943
平成18年1月計	14.0	15	163	86	837
平成17年1月計	17.8	21	205	87	1,671

**【まき網】**

マイワシの水揚げは、小川港では0.3トン(平年同期74.8トン)、沼津港では0.9トン(平年同期79.6トン)と平年同期の0.1%以下と極めて低調に推移した。一方、伊東港では1.6トン(平年同期0.7トン)と平年同期を上回った。静岡港では水揚げがなかった。

注) 平年同期:過去5か年(2002～2006年)平均

**【調査船の動向】**

富 士 丸

1月18日 ～ 第6次南方カツオ航海調査中

駿 河 丸

1月9日 ～ 1月12日 地先定線観測(駿河湾、遠州灘) (3日間)  
 1月15日 ～ 1月16日 サバ標識放流調査(駿河湾) (2日間)  
 1月18日 ～ 1月19日 サクラエビ調査(駿河湾) (2日間)  
 1月22日 ～ 1月22日 マリンロボ調査(3号基) (1日間)  
 1月25日 ～ 1月26日 マリンロボ調査(3号基) (2日間)  
 1月29日 ～ 1月30日 サバ標識放流調査(駿河湾他) (2日間)

静岡県水産試験場のホームページ  
 パソコンからは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>  
 携帯電話からは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/imode/index.htm>  
 右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAによる海面の水温分布画像を見ることができます。

